

今学校では.....

忙しさが次の忙しさを生む 短期に見える成果を要求する目標設定

井上 圭介

昨年11月に病休のピンチヒッターとして教壇に復帰し、今年には時間講師として春野高校6時間、伊野商業9時間の掛け持ちで勤務しています。両校ともかつての実業高校(専門高校)ですが現在は総合学科、単位制の時流に乗った学校になっています。

だ結証た式な手化言歳努が論てさと展階社然局資恐のしあ論かたとるに... (Main body text of the article)

き急かに走どぶがし... (Continuation of main body text)

産スい導ん対量う主どう... (Continuation of main body text)

科学的思考の命は 飲水思源 理性を油断なく 使うこと

たこそむール分確は... (Continuation of main body text)

- ① 授けに業の考慮が... ② 専門的知識の習得... ③ 授業の準備... ④ 授業の進行... ⑤ 授業の時間配分... ⑥ 授業の準備... ⑦ 授業の進行... ⑧ 授業の準備... ⑨ 授業の進行... ⑩ 授業の準備...

と世日究めすせまが働歩の科で未る有れが有大大主様は発とちさ係... (Main body text)

てれば始て然案し事努議をるトは南く前要... (Main body text)

なし流社 ⑪ 激成... ⑩ 自己無... (Continuation of main body text)

正誤 山と野原の会... (Correction notice)

あれを言同突すが多問が余に電い返しあた裏れでの多超同成ら... (Continuation of main body text)

初月農園だより

(スイカ)

島本 聡

スイカを初めて育ててから、もう二十年になる。当時、比嘉嘉照夫著『菌による有機堆肥に興味を持ちボカシ肥料をつくるのに意欲をもやして、その効果を確かめようと、周辺農家はほとんどつくりないういカを15本ほど植え、甘酸っぱい米麴のような臭いのするボカシ堆肥120kgふりまいておいた。まだ須崎高校の定時に勤務していたので、野菜を育てる時間が限られていて、七月下旬には私の畑はすっかり雑草に占領されていたが、その雑草の中に、赤と黄色の立派なスイカが、20個ほどできていた。

こんなに簡単なら、もっと大量にと、次の年は40本ほどの苗を買い込みスイカの育て方なる本にしたがい、1本の苗から3本の子づるを伸ばす。1番目の実は大きくならなかったり変形するので15節目以後につく実を育て、節ごとにくるわき芽はすべて取り除く、受粉も行い、雑草も除草し、せつせと世話をし

私がいま熱中しているのは、囲碁です。囲碁自体は昔から知っていましたが、現役のときは、余裕がなくて熟達する

老「熱中時代」

森下清二郎

た。ピンポン玉からハンドボール、バレーボールとみるみるうちに大きくなる実を眺めながら、スイカに貼ってあるシールはどこで手に入るだろうか?と思いを巡らせていた。

7月中旬梅雨が明け照りつける太陽、あと10日ほどで収穫しようか。と見に行くと、あれ!すべてスイカの葉が一斉に元気がなく、しおれているのだ。哀れなりスイカ達。青枯病である。青枯菌に伝染しているのだ。この細菌は湿度の多い土壌には何年も生きていて、いったん発生するとその除去は大変難むつかしいようである。

次の年は場所を変え、湿度のあがらないように雨よけビニールをかぶせ、高畝にし、青枯病対策に怠りなし。60個ほどのスイカが、ごろごろと音がった。着果から40日、50日ですごい美味しくなるから、あと5日ほどで収穫だ。

あれ!愛すべきスイカ達に傷をつけたのは誰だ、ほとんどのスイカに大きな穴があいているのだ。あたりをみわたすと、数羽の頭の黒いやつが、アホー、アホーと鳴きさながら飛んでいる。

まずは毎日の「しんぶん赤旗」の囲碁欄を見て、碁盤に石を並べ、明日の手を予想するのはプロの手ですから、あまり当たる事はありませんが、いろいろと手を考えて、先の展開を予想するのは楽しいものです。

った。泣きたいのは私だ! 以来十数年、鳥の対策をしたり、青枯病対策に接ぎ木苗にしたり、棚つくりにしたり、1本仕立てにしたりと工夫するが、まともに収穫できずにいる。今年も梅雨に入ったとたんマダボールが3本枯れていた。妻は言う「パチンコと同じようなもので、最初にいい目をあわしただけで苗代もとれんし、もういいかげんでやめたら」と。

「高退協ニュース」編集クラブ」結成。

高退協ニュースの内容を更に豊にするために前記の会を作りました。偶数月の最後の週の火曜日午後編集会を開いています。一度のぞきにきてみませんか。ついでにニュース原稿を持って来てくれるとうれしい限りです。

次に、NHKの囲碁雑誌を月一で購入し勉強することです。基礎からかなりの高段者向けの問題もあるし、いろいろな棋士の手合いを見て、大いに勉強になります。

さらに、月一で地域の囲碁クラブの集まりの参加と伊野町の囲碁大会に参加しています。前者は10人くらいの参加で、和気あいあいで楽しいものです。後者は90人ほど参加しています。優勝をめざして適度な緊張感もあって面白いものです。

囲碁をしている人は、ほとんど認知症にならないことが科学的にも証明されています。皆さんも遅くありません。今から囲碁を始めませんか。

主な活動と参加：5月、6月

- 5月6日・原爆と人間展高知城ホール1階ロビー県原水協主催
- 5月12日・子どもと教育を守る高知県連絡会主催・学習会
- 5月12日・亡国のTPP増税反対・植草一秀講演会
- 5月19日・国民大運動高知県実行委員会総会&学習講演会
- 5月20日・伊方原発とめる高知県の会」結成学習会
- 5月21日・山原健二郎資料室友の会総会 高知城ホール
- 5月21日・平和行進実行委員会・県原水協総会
- 5月24日・高知県高齢者運動連絡会総会・学習講演会
- 5月25日・消費税増税・TPP参加・社会保障改悪・原発再稼働を許すな!県民集会



- 5月2日・フクシマ「レベル7」のメッセージ・ジャズシンガー・堀江真実を迎えて
- 5月3日・第52回市母親大会
- 5月6日・6日・全退教2012年度総会(結成20周年記念集会)
- 5月6日・県社会保険推進協議会総会・学習講演会
- 5月6日・岡村眞特任教授による『巨大地震最新情報と伊方原発』主催・グリーンネット
- 5月12日・高知県退職教職員協議会第32回定期総会
- 5月17日・2012原水爆禁止国民平和大行進高知コース7区
- 5月22日・第100回高退協読書会 ムトー201号
- 5月30日・高知市役所前集会
- 5月30日・社会福祉講演会
- 5月1日・第58回県母親大会

短歌

猿橋賞

山本晶子

一ドルが八十円以下 新聞を見るたび憂う日本の産業

いつの間にあいば印刷、かつら釣具なくなりけん寂しみ歩む

三人子の母なる阿部さん猿橋賞

こういう女性もこの世に

(東大准教授)

新藤兼人監督の

「愛妻物語」など

榊原忠彦

いやさらにももの捜す習癖深まりぬ恍惚の境に近づくか吾は

卒論を書きなづみるし京都時

代勇氣賜びたる「愛妻物語」

(一九五一年、新藤監督の初作品)

神山が選びし兼人の三本中「

溼東綺譚」あるを吾も肯ひぬ

(五月三十一日読売新聞「神山

征二郎の追悼文」で)



ヤマズリ

「復帰」四十年

叶岡淑子

復帰とは何であつたか四十年

基地沖繩の痛み身にしむ

普天間のフェンスの檻の子どもらにオスプレイまで降らす

というのか

沖繩もフクシマもまた捨石に

させてはならじ人間の名で

俳句

四月二十一日 土曜

いの町 土佐和紙工芸村

合田青幹

天に至る古石垣を耕せる

一軸は春待つ五言絶句かな

小笠原さちを

羽休む太き 梁 燕

うつぱらひばり

つぎつぎと類被り解く葱坊主

「ズッキューン!」。背中に

激しい電流が走り、一瞬目の前が真っ暗になり、額から冷や汗が吹き出した。そして、激痛。「しまった! やつてしまった」

「ただいま勉強中」

井垣政利

高退協「山の会」が椿山(一

川柳

あかつきの抄②

小澤 幸泉

万歩計さびついたまま

永遠の夢

ふるさとの山河に夢も

歌もなし

思い出のひとは越後で

母となり

あの秘密まだ裏町に

生きている

女房に内緒で開く

古日記

音のない世界は色は

何だろう

音無しの構え何かが

起りそう

雑音は届かぬここは

鞍馬寺

目指すもの探し求めて

なお遠い

長生きをせよと神さま

言うてはる

五月十九日 土曜

土佐市 宇佐

第三十六番札所青龍寺

鐘楼の黒門涼し青龍寺

合田青幹

河骨の花の待たるる池古し

小笠原さちを

晴れ渡り寺領隅なく新樹光

花海桐(つ)つ西へ徒遍路

五八五m)登山を計画した。

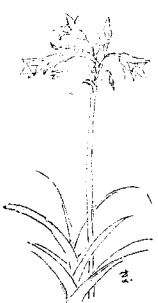
平家伝説と焼畑で知られる仁淀川町椿山集落の真北にある高知県最奥の山で、四国のほぼ中央に位置する。さして高い山ではないが、登山口から頂上までの標高差七〇〇mは急登の連続で、頂上直下は背丈以上もあるはずだけのブッシュを掻き分けて登らなければならぬ。「山の会」には少々手強い山である。

六月一〇日、梅雨の合間をみて、一〇人で挑戦した。声を掛け合いながら悪戦苦闘すること二時間半、全員が無事登頂。三六〇度の大パノラマは爽快そのもの。北は筒上・手箱を露払いに従えるようにして石鎚山が重量感ある姿を見せる。南に目をやると眼前には美しいピラミダルな雨が森が、その遙か南には烏帽子のような形をした横倉山、そして浦戸湾がかすかに光っている。中津明神、工石山などなじみのある山々も見える。その美しい展望と登頂の満足感にひたりながら、大きく息を吸い込み「バンザイ! ヤッホー!」。

だが、登山はこれで終わりではない。ご存知のように下

山がある。登山を計画する時には、登頂するための登りの算段はあれこれ練るが、下りについてはあまり頓着しない。登山にたいして下山という行動は軽く見られがちである。私もそうだった。しかし、今回はすこし違っていた。リーダーをまかされて、考えた。全員登頂してもらうのは当然として、安全にケガ無く下山することを第一とした。前段には下見登山をやり、下りの危険な箇所をチェックし万全を期した。

無事全員登山を果たし、昼食後下山を開始。滑りやすい岩や木の根つ子など十分に注意を払いながら慎重に下る。下山開始から二時間、危険な



ハナタチバナ

場所はほぼやり過ぎ、登山口までもうあと三〇〇四〇分と安心し、後ろを振り向いて「後少し!」と声を掛けた。と、その瞬間、右足が小さな石ころを踏み前に滑った。左足で踏み耐えようとした時、足首が内側に折れ込でしまった。心地よい登山の爽快感が一瞬のうちに激痛に変わった。足首にひびが入り、左の足はギブスでがっちりとかためられた。私のヒマラヤ登山の「栄光」は砕け散ってしまった。

数日後、高退協の山の仲間が五木寛之の「下山の思想」という本を届けてくれた。私は今、下りに入っている人生をも含めて勉強中。私は下りが下手である。